

学習のピラミッド



今回は薬の話とは離れた話題になります。数年前にとある薬局さんのBSC研修会に参加させてもらった時に講師の方が示されたスライドの内容です。なるほどと思ったのでいくつかの研修会の際にも利用させて頂いている内容でもあります。

1) BSCとは

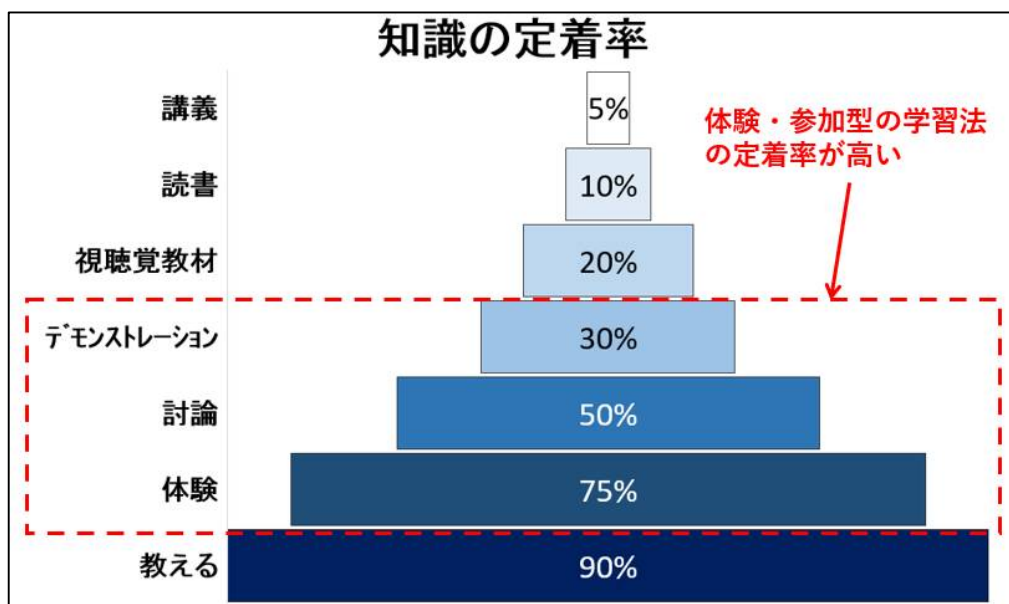
そもそもBSCとは何か？ですが、**Balanced Scorecard**(バランスド・スコアカード)の略で、元々は**経営戦略**を達成するために現状の業績評価をし、今後の経営戦略の目標づくりを可視化しながら作り上げていくシステムになります。その手法を医療の世界でも活用しようとする**日本医療BSC研究学会**もあります。実際にBSCの手法を利用されている病院(保険薬局では少数と聞いています)も多いのではないのでしょうか。今回の話はBSCそのものではなく、学習方法別の知識の定着率についてになります。

2) 知識の定着率とは

読者の皆さんもこれまで様々な事柄を学習してきたと思いますが、実際に自分の知識の中に落とし込めた内容はどれほどあるのでしょうか？学校の講義にしても多くの教師が課程に則りながらも教えてくれたはずですが、彼らの話の内容がどれだけ我々の脳内に定着したのでしょうか？

確かにユニークな先生もいて、印象に残る授業もありましたが、最終的には試験のために教科書やノートを熟読して理解してきたような気がします。

今回の資料はこの分野の第一人者の一人である日本大学商学部教授の高橋淑郎先生を招いた時の研修会資料からになりますが、知識が定着しやすい学習方法を比較したグラフになります。



- ・ 学習の方法を上から、**講義、読書、視聴覚教材、デモンストレーション、討論、体験、教える**という7分類にした時、**講義**による知識の定着率は最も低くて**5%**、**教える**(家庭教師的な感じか?)は**90%**と最も高くなっています。

- ☛ 研修会での結論は、デモンストレーションから体験までの、**自分自身が参加する形式の学習による知識の定着率が高い**というもので、B S C研修会も各自の参加形式で行われたのでした。

3) 自分の業務を振り返る

私自身もこれまで様々な講義、学会発表、講演会、研修会などに参加してきましたが、印象に残り続けるのは、自分自身が興味を持っている分野であっても、興味を引きつける上手な話し方をする教師や講演者(面白かったなと思うだけで内容が残っていない場合もあります)の講義は、グラフでは5%程度の定着率ですが印象に残ります。そしてスモールグループディスカッション(SGD)を含むグループ研修型の内容は割と頭の中に残っているように思います(グラフの討論と体験に相当)。さらに頭の中に残っていることは後で自分で調べてみようというキッカケにもなるので有用だと思っています。最終的には自分で調べて納得しないと真の知識の定着にはつながりません。さらにそれらを人のために活かせることができれば最高と言えるでしょう。

①あだちPAS企画を作ったきっかけ

潜在的に薬剤師は勉強したがつているという前提で、大手チェーン薬局では充実した研修システムがありますが、私が関与していた小規模な薬局グループでは限界があります。また様々な業務環境や家庭環境もあり公的な研修会に参加できない薬剤師もいます。そこで考えついたのが各薬局のわずかな空き時間を狙ってこちらから押しかけて短時間学習会を実施するというものでした。要するに家庭教師型学習会の押し売り業です。講義形式になりがちですが、相手とのマンツーマン形式になるので、疑問点などを出し合い、分からない時は調査して後日に回答を連絡するという形です。単なる講義よりは知識の定着率は良いかなとは思いますが、相互の対人の相性もありますので、独立した形にはしましたが、かつて私が関与していた薬局法人限定で始めたわけです。内容も病気と薬の解説から実際の薬歴検討や雑誌の症例問題を独自に検討するなどと変遷をしながら、登録販売者用に事務職員も交えて店舗で販売している一般用医薬品の解説も適宜加えながら、細々と今も続けています。

②大学非常勤講師での工夫

大学病院勤務時代から非常勤講師の立場で病院薬剤部教授の授業の一部をお手伝いしていますが、私が保険薬局に移ってからは保険薬局の立場から医療薬剤学を考えるというテーマで実施しています。薬学部3年生対象の必須科目だったので、6年制になってからは薬剤師資格を取得できる6年制の学生とそうではない4年制の学生の混成授業になりました。私のテーマからすると4年制の学生達に興味をもてなさそうな印象があったので単なる講義形式だと彼らは絶対寝ると思い、なるべく学生が授業に参加できる形に持ち込もうとしました。

- 1) **○×形式問題プリント配布**: 期末試験でも取り上げる問題で、私の講義の話題を20問の1行○×問題にしたプリントを配布します。私の講義を聴きながら○×を付けていく形式です。いつその話題が出てくるか分からないので、眠ってられない(ぐっすりとお休みになっている学生もいます)。
- 2) **インタビュー形式**: 講義時間の関係上、数多くはできませんが、マイクを片手に学生の席の間に入り込んで、どう思いますか?と問いかけていきます(さすがにお休みにはなれないようです)。

これまでの薬剤部長の話では、私の講義は学生からは好評だという評価を受けているようですが、5年生時の学外保険薬局実習の時に、たまたま出会った学生達に私を覚えているか?と聞いてみると半数は私を全く覚えておらず、残りの学生達も同じ名字だった前薬剤部長との区別が付いていなかったりと、講義直後の学生による講義評価と2年後の記憶には**かなりの解離**があるように感じています。しかし、この結果はそれなりに興味深い結果だと感じています。(終わり)